

【参考】

# よさの地域デザイン会議 まとめ

令和4年7月

与謝野町企画財政課

# よさの地域デザイン会議

年齢、性別、居住地区、肩書などが異なる多様な住民が参加して、「**持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方、それに必要な公共施設のあり方**」について、対話により多彩なアイデアや提案を収集する



**住民基本台帳から無作為抽出した方から公募！**

# 会議運営の特徴

## 特徴 1：専門家からの情報提供

専門家や行政から対話の基礎となる情報を提供してもらいます。  
基礎知識が無い方でも対話に公平に参加できます。

## 特徴 2：少人数による対話・複数の結論

少人数で対話を行い、テーマごとにメンバーを変え、多彩なアイデアや提案を出し合いながら複数の結果が導き出されます。最終的には、いくつかの結果に整理できます。

## 特徴 3：結果の公開

対話の結果を整理し広く公開することで、公正・公平・信憑性を確保します。

加悦地域



京都産業大学現代社会学部  
教授 滋野 浩毅 氏

岩滝地域



福知山公立大学地域経営学部  
教授 谷口 知弘 氏

野田川地域



(一社) 地域問題研究所  
理事長 青山 公三 氏

全体会



福知山公立大学地域経営学部  
准教授 杉岡 秀紀 氏

| 設置地域 | 参加者                       | ファシリテーター                                  |
|------|---------------------------|---|
| 加悦   | 18名（男：10名、女：8名）           | 京都産業大学現代社会学部<br>教授 滋野 浩毅 氏                |
| 岩滝   | 19名（男：9名、女：10名）           | 福知山公立大学地域経営学部<br>教授 谷口 知弘 氏               |
| 野田川  | 20名（男：7名、女：13名）           | 一般社団法人 地域問題研究所<br>理事長 青山 公三 氏（京都府立大学名誉教授） |
| 全体会  | 福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀 氏 |   |

目指す方向性

**公共施設の総数を減らしながら  
公共サービスの質の維持・向上**

# 会議経過

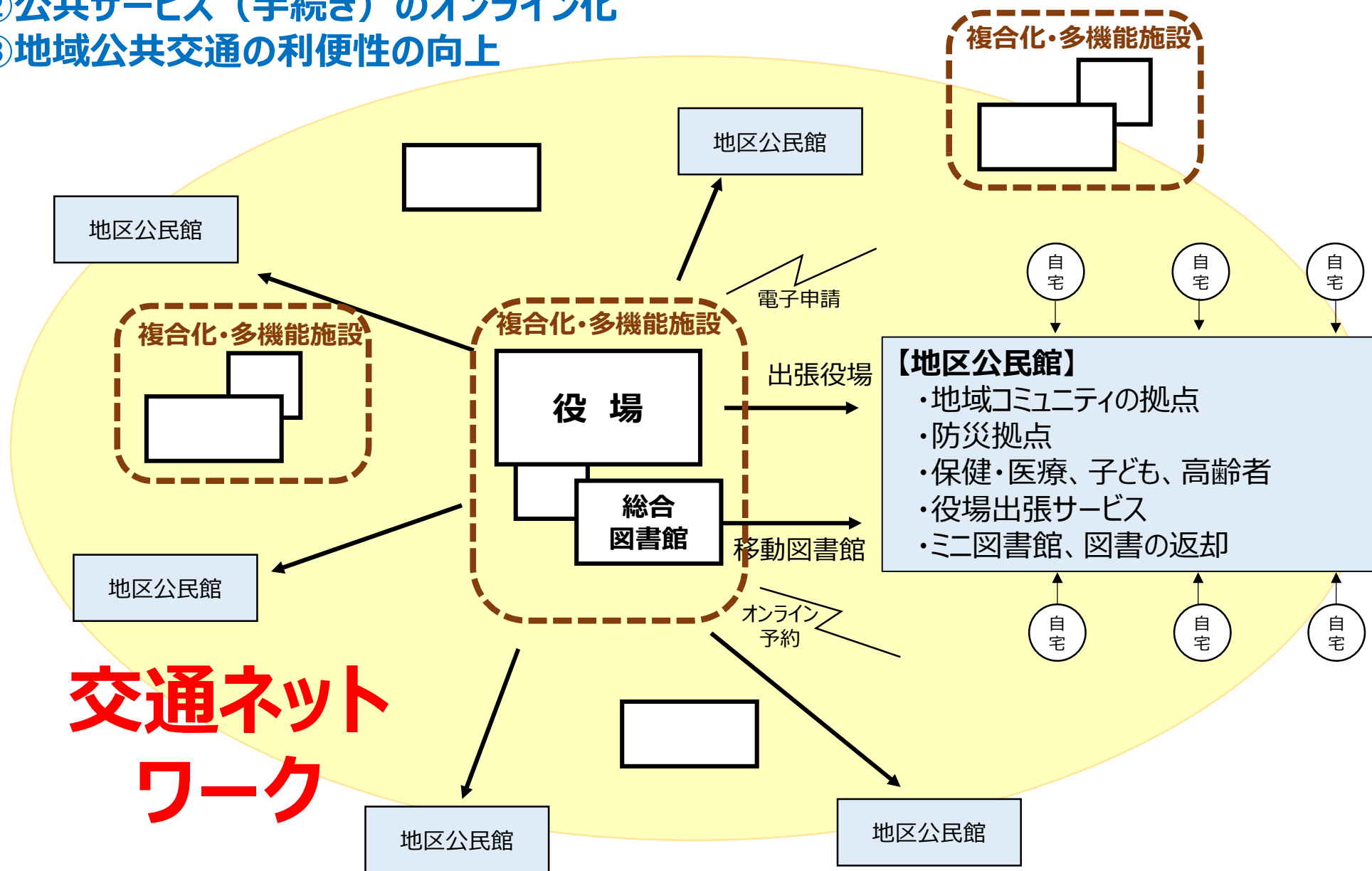
|                            |                    |                        |
|----------------------------|--------------------|------------------------|
| 8月22日（日）<br>13時30分～15時30分  | キックオフミーティング（オンライン） | 背景、目的、現状の共有            |
| 10月 8日（金）<br>19時～21時       | 第1回岩滝地域            | 公共サービスの利用圏域            |
| 10月 9日（土）<br>13時30分～15時30分 | 第1回野田川地域           |                        |
| 10月12日（火）<br>19時～21時       | 第1回加悦地域            |                        |
| 11月 1日（月）<br>19時～21時       | 第2回野田川地域           | 公共サービスの機能の組み合わせ        |
| 11月 2日（火）<br>19時～21時       | 第2回加悦地域            |                        |
| 11月 5日（金）<br>19時～21時       | 第2回岩滝地域            |                        |
| 11月21日（土）<br>13時30分～15時30分 | 中間全体会              | 各地域の進捗共有               |
| 12月 6日（月）<br>19時～21時       | 第3回野田川地域           | 地域や民間事業者による公共施設の新しい使い方 |
| 12月 8日（水）<br>19時～21時       | 第3回加悦地域            |                        |
| 12月10日（金）<br>19時～21時       | 第3回岩滝地域            |                        |
| 3月20日（日）<br>13時30分～15時     | 最終全体会（オンライン）       | 全体共有                   |

## 意見の整理

よさの地域デザイン会議は、加悦地域、岩滝地域、野田川地域ごとに開催し、「利用圏域」、「集約・複合化」、「サービスの担い手」をテーマに意見を出し合い、最終的に加悦地域 4 班、岩滝地域 3 班、野田川地域 4 班の計 11 班で意見整理が行われたので、様式は決められていたものの班ごとに異なる整理となっています。

なお、7ページでは、すべての会場で意見整理の様子を見てきた企画財政課の文責により、11の班の意見のうち概ね方向性が一致する意見を整理したものです。

- ①役場庁舎は一つにし、地区公民館の機能を充実
- ②公共サービス（手続き）のオンライン化
- ③地域公共交通の利便性の向上



## 班別意見の整理結果（加悦地域）



近くがよい ←

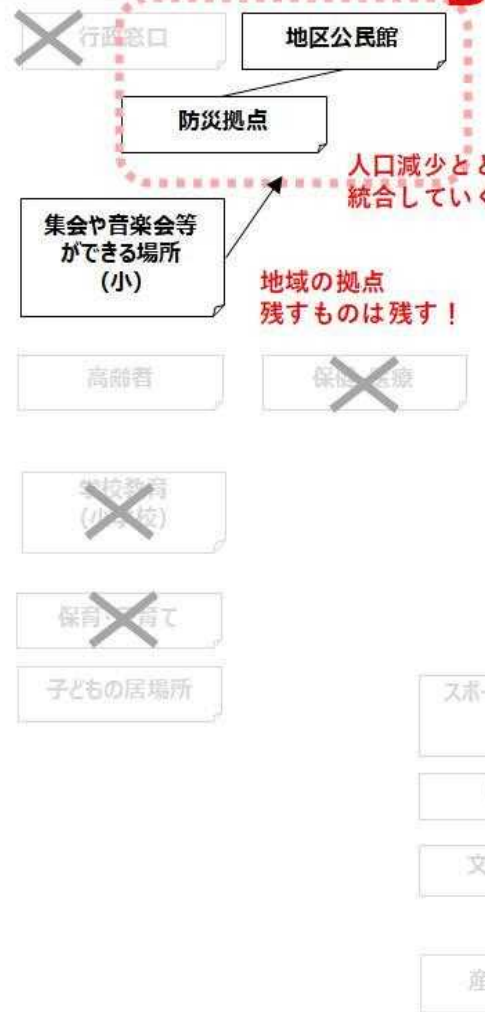
→ 近くになくてもよい  
遠隔

小学校区

旧町区域

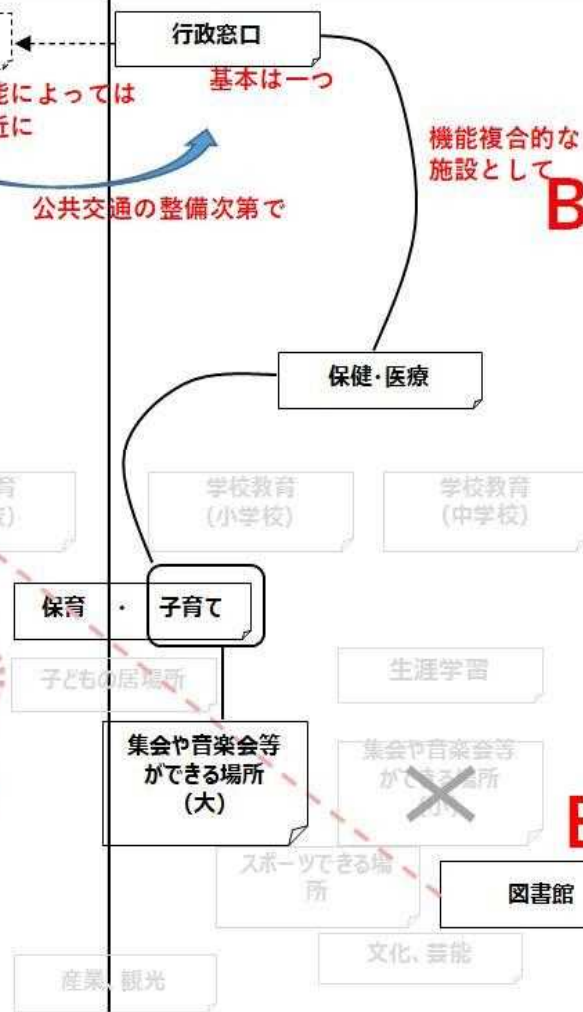
全町域＝まちの1つで良いサービス

近隣市町

高齢者の  
ためには・・・機能によっては  
身近に

基本は一つ

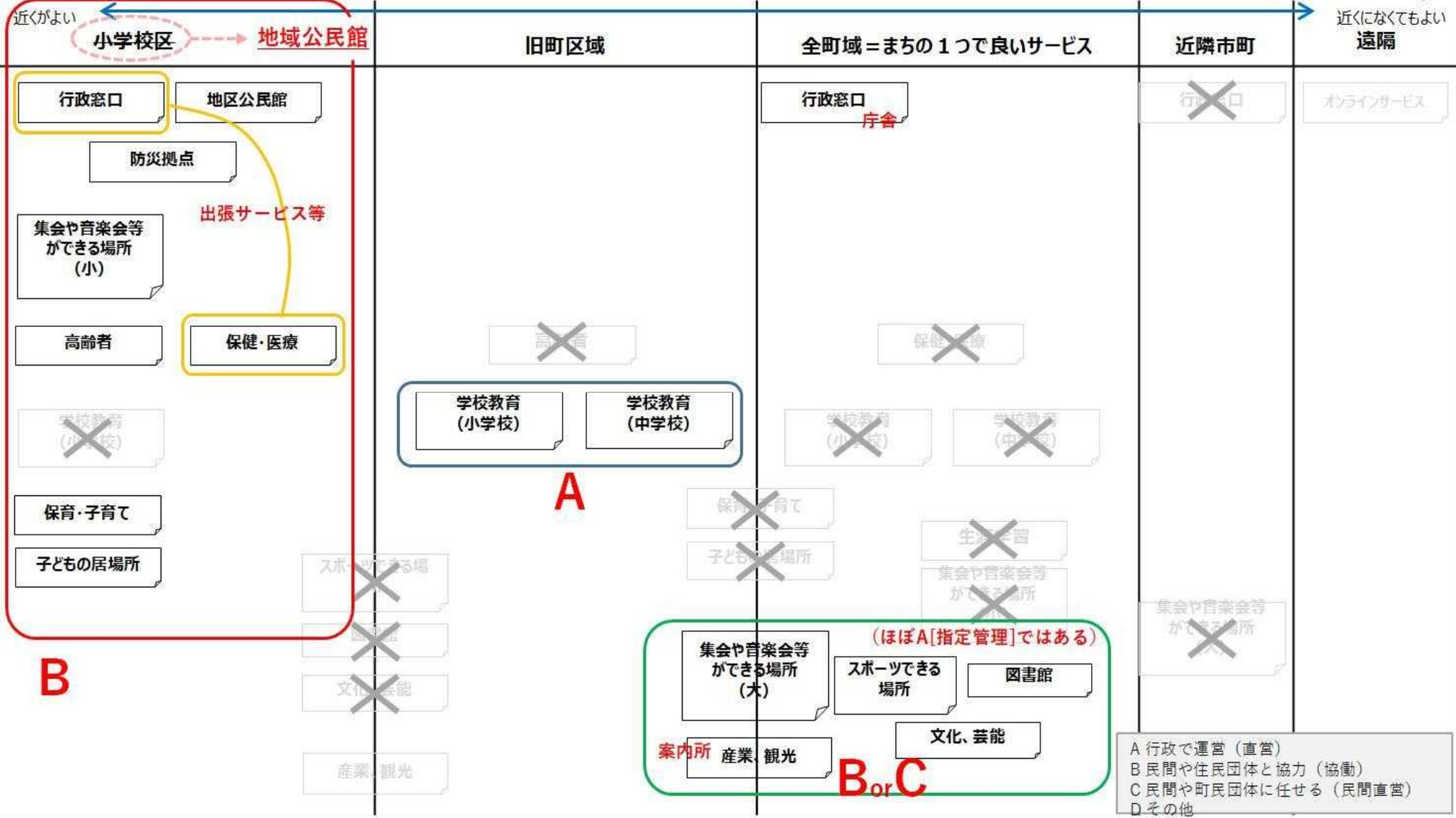
公共交通の整備次第で

機能複合的な  
施設として今ある施設を活かして、  
人が集まる工夫  
をしては・大江山運動公園  
・古墳公園  
・双峰公園人の流れ  
お金生まれる

- A 行政で運営（直営）  
B 民間や住民団体と協力（協働）  
C 民間や町民団体に任せる（民間直営）  
D その他

- 行政窓口は、町に一つに集約する（行政機能の集約化には地域交通の利便性の向上と手続きのオンライン化が大前提）。
- 行政機能だけでなく、民間の商業施設等との複合的な施設とするなど、人が集まる施設の整備を進める。
- 子供の遊び場や地域コミュニティの拠点は地域に残す。

- 魅力的な施設が点在しており、線をつなぐと新たな価値が生まれる可能性が大いにある。行政・民間が協働して、今ある施設に磨きをかけ、ヒトやお金が還流する仕掛けをつくる。
- 地区公民館に、いろいろな機能を付加していく（例えば、防災拠点や図書館機能など）。

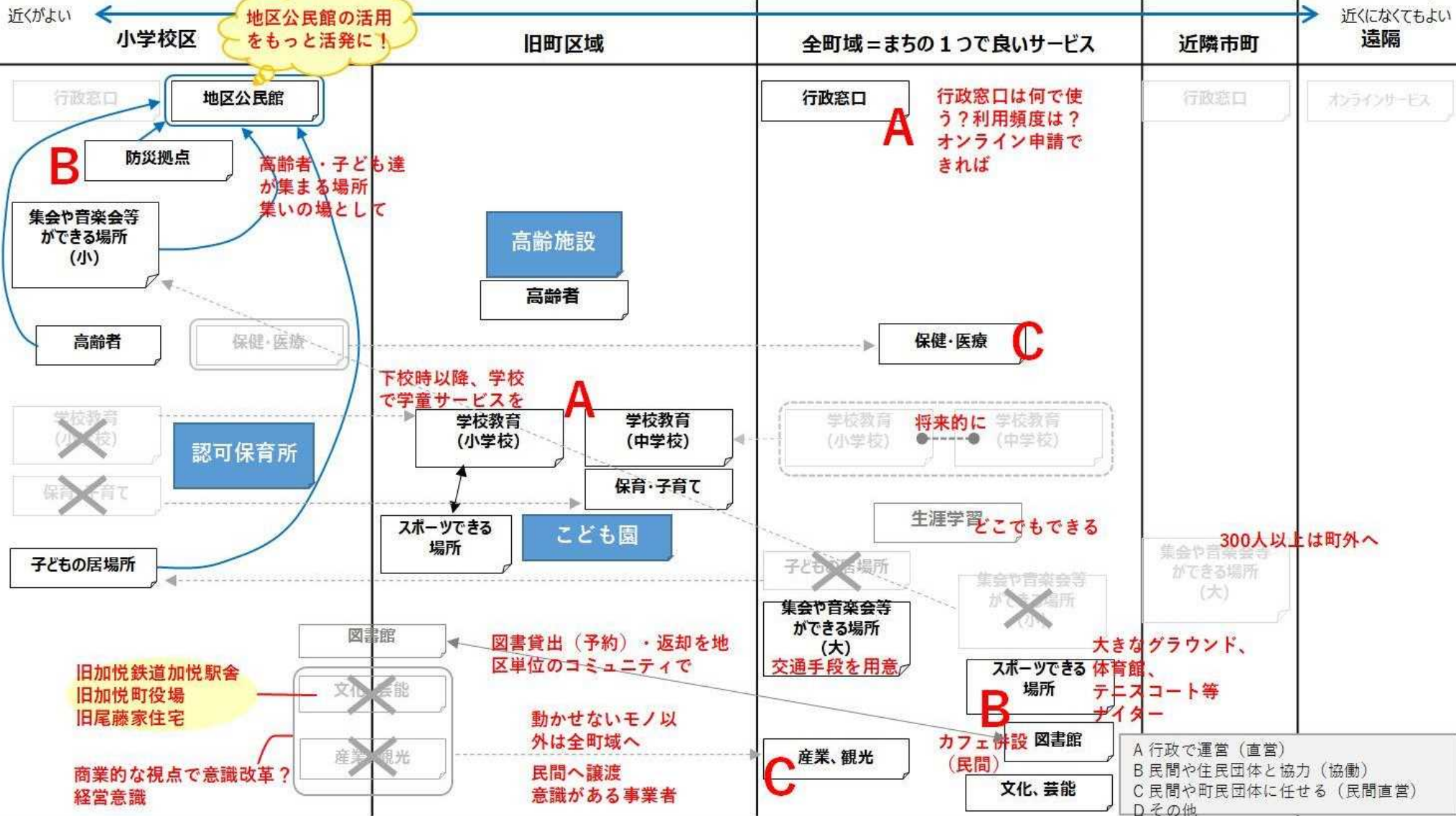


・地域公民館を拠点に、各種サービス（保健・医療、高齢者、子育て）を受けられるよう集約する。

「方法」 協働：民間直営は現実的には不可能と考えられるため、職員派遣など（出張サービス）の行政支援によりサービス低下を抑止しつつ、旧町や全域にある同機能施設を統廃合させる。

・図書館、スポーツ施設、集会所（大）については、利便性向上を前提とし全町域で一つの施設に集約する。

「方法」 協働→民間直営：いきなり民間直営施設とするのは困難であるため、将来的な展望（期間など）として民間直営運営に切り替えていく。指定管理施設として施設を維持管理し、一定期間内に民間直営運営に変更する。



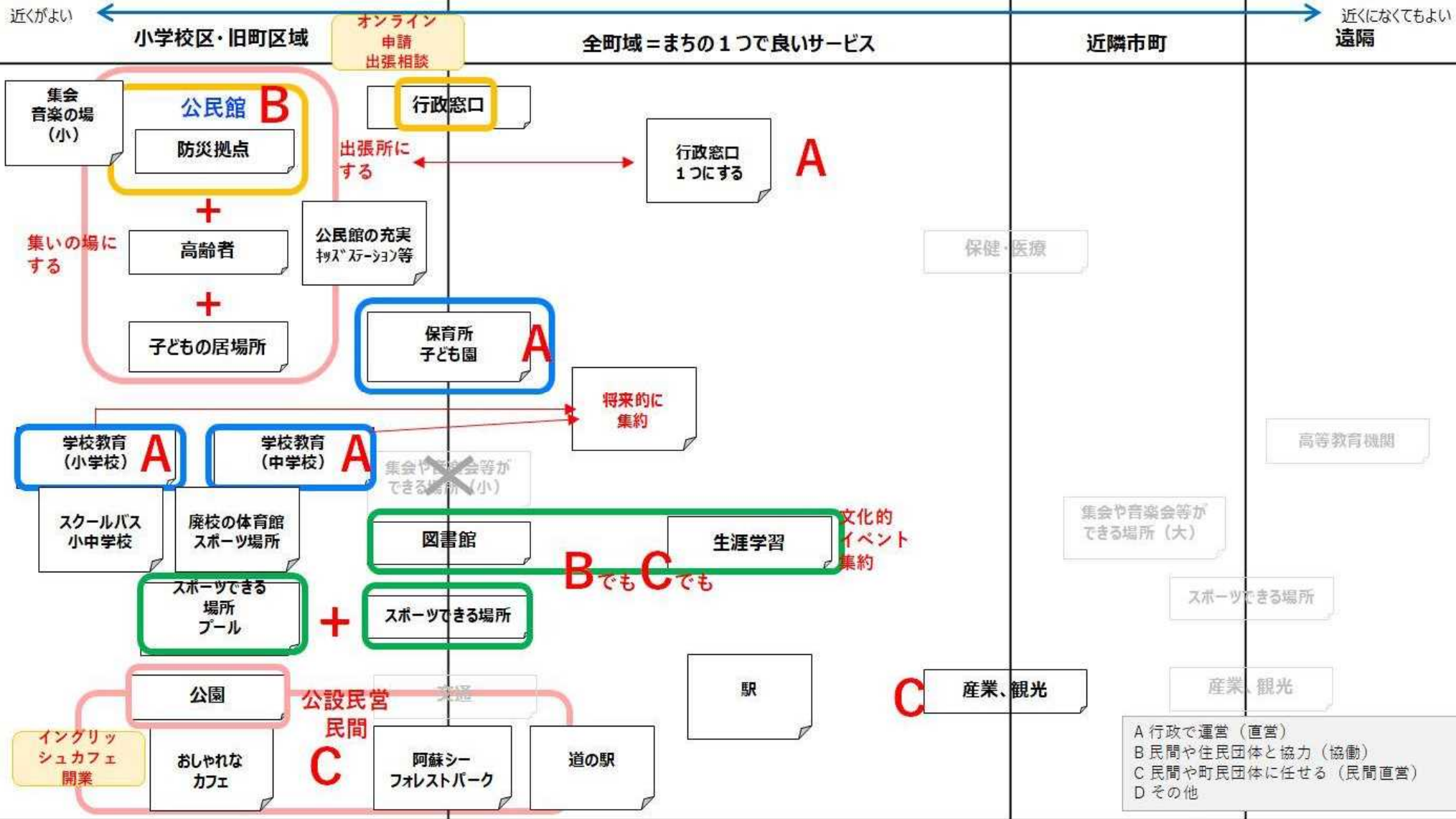
- ・地区公民館の機能を拡充・活発に！
- ・従来の機能に加え、人が集まることができる憩いの場として。
- ・教育施設は下校時以降の時間帯で学童サービスを！
- ・行政窓口は町域に一つとし、オンライン申請で対応できる体制を整える。
- ・文化的施設で不動産そのものが文化的なものは現状維持。

- ・グラウンド、図書館、大規模集会所等は民間の力を取り入れながら経営的視点で運営できるよう集約する。





## 班別意見の整理結果（岩滝地域）



- ・行政窓口の集約（オンライン申請、出張相談等でフォローアップ）
- ・地区公民館の充実（サービスの複合化：役場窓口の出張所、高齢者や子供の集まる場所など）→民間の力も活用
- ・小中学校は将来的には集約（町内の子どもが極端に減少した場合）
- ・文化的施設（イベント施設、体育施設、図書館等）の複合化→民間の力も活用

- ・阿蘇シーサイドパークに道の駅や、カフェなどの商業施設を複合化→公設民営
- ・全体を通じて個人情報扱うサービス以外の部分については、民間の力を活用して行く余地がある

近くがよい

近くなくてもよい  
遠隔

小学校区・旧町区域

全町域 = まちの1つで良いサービス

近隣市町

石田地区公  
民館  
(区所有)

防災拠点

B

行政窓口

行政サービスのオンライン化  
例えば  
コンビニとかで受けられる

コミュニケーション+働く

高齢者

生涯学習

B

子どもの居場所

保育・子育て

商店街

保健・医療

学校教育  
(小学校)

学校教育  
(中学校)

高等教育機関

集会や音楽会等が  
できる場所 (小)

生涯学習

集会や音楽会等が  
できる場所 (大)

図書館

工業団地

スポーツできる  
場所  
プール

スポーツできる場所

スポーツできる場所

公園

交通

産業、観光

産業、観光

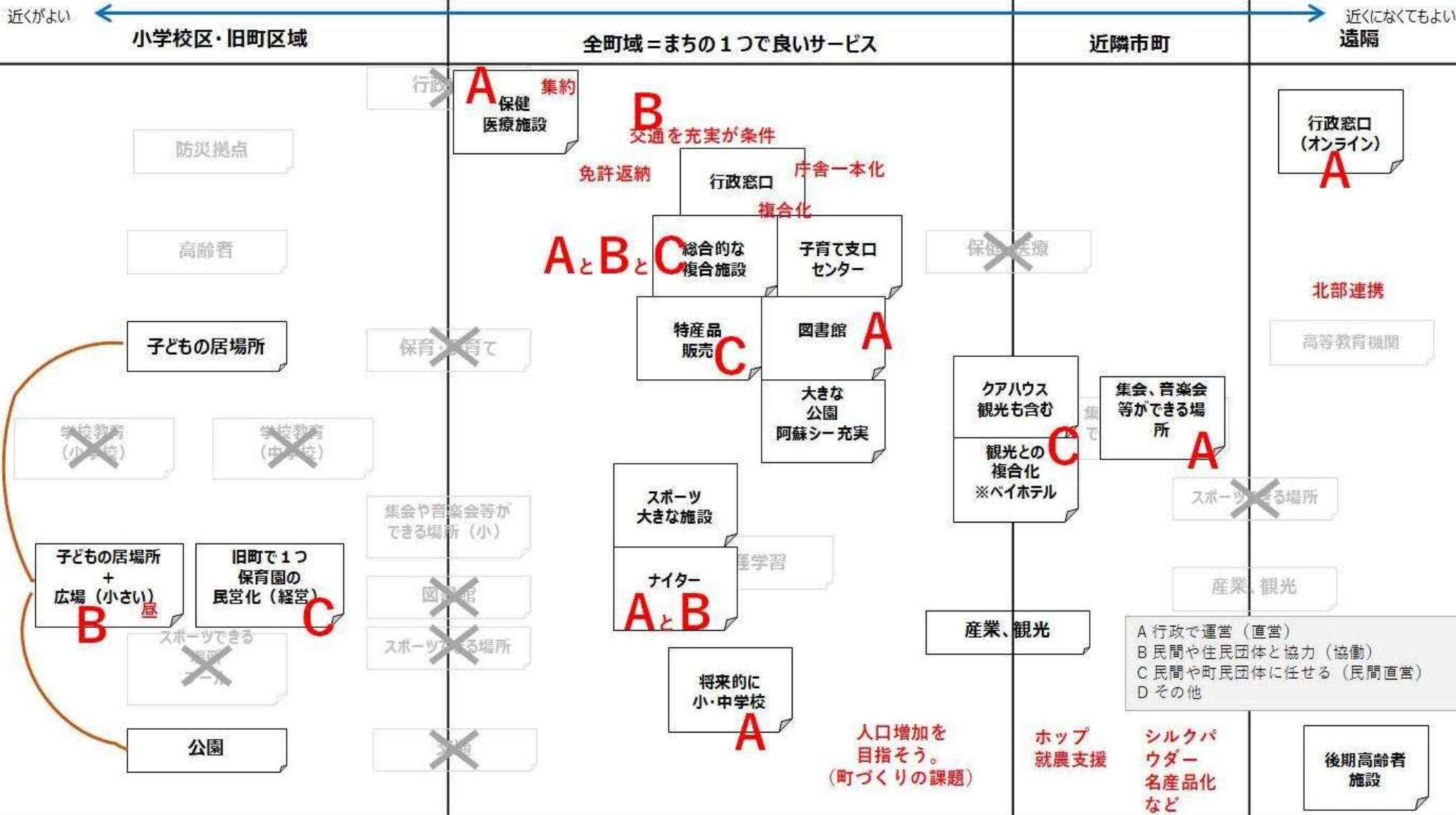
A

C

A 行政で運営 (直営)  
B 民間や住民団体と協力 (協働)  
C 民間や町民団体に任せる (民間直営)  
D その他

- ・行政窓口の利便性の向上(コンビニやオンライン等で申請できるような仕組み作り)
- ・交通の利便性の向上(採算の取れそうな地域においては民間による運営とし、難しい地域においては行政が運営する必要がある。この際、高齢者等に対する割引支援などを町が行えば高齢者も利用しやすく民間も参入しやすい。)
- ・防災拠点運営における民間・住民の参入(各地区における独自運営を増やす。)

- ・多世代間交流施設の充実(公民館等を活用し、高齢者から子どもまでの広い世代がコミュニケーションをとれるだけでなく、働けるような施設にすることで、住民にとっての居場所兼収入を得られる場所となる。)
- ・学校の図書館の蔵書が古く、更新されていない。多世代間交流施設に機能を統合してはどうか。他にも運動できるスペースや公園などもあれば利用者も増える。



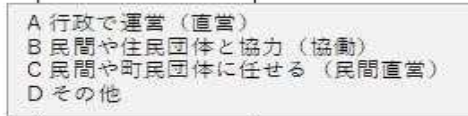
- ・庁舎一本化（窓口に係るコストを削減する。また、サービスを下げないようコンビニ対応やオンライン化など利用しやすくする。）
- ・総合的な複合施設の設置（図書館や子育て支援センターなどを集約し、集客が見込める利便性のよい施設とする。）
- ・医療関係施設の集約（健診など医療関係の施設をまとめ集約する。）

- ・小中学校の集約（子どもの人口が減少した場合）
- ・保育園の民営化（旧町で各1施設へ）
- ・子どもの居場所づくり（公園を大きさに分けて活用方法を見直す。）
- ・人口増加を目指す。（施設の統廃合や合理化と並行して人口を増加させる取り組みを実施する。）

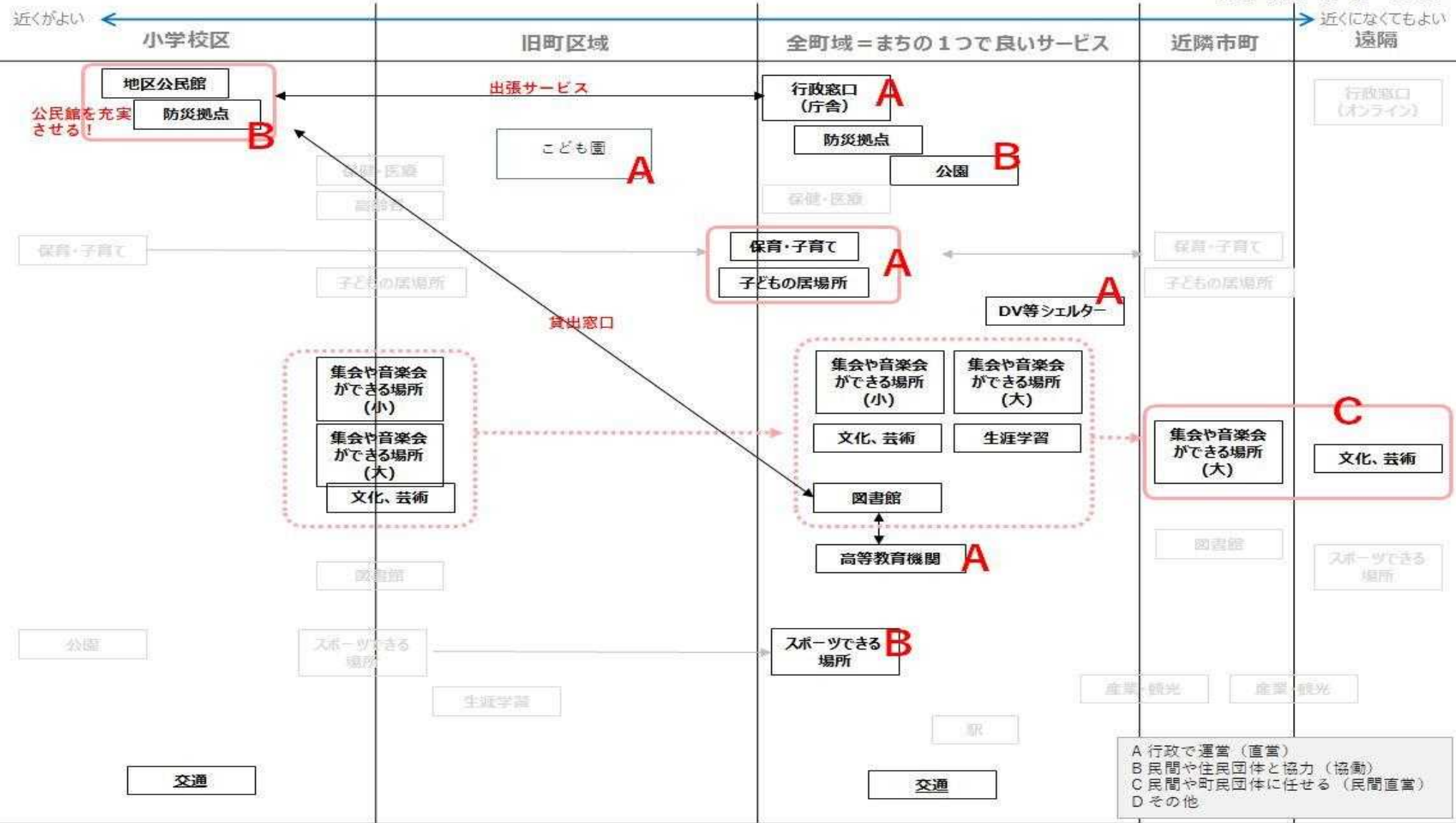


## 班別意見の整理結果（野田川地域）

・近くになくてもよい  
遠隔

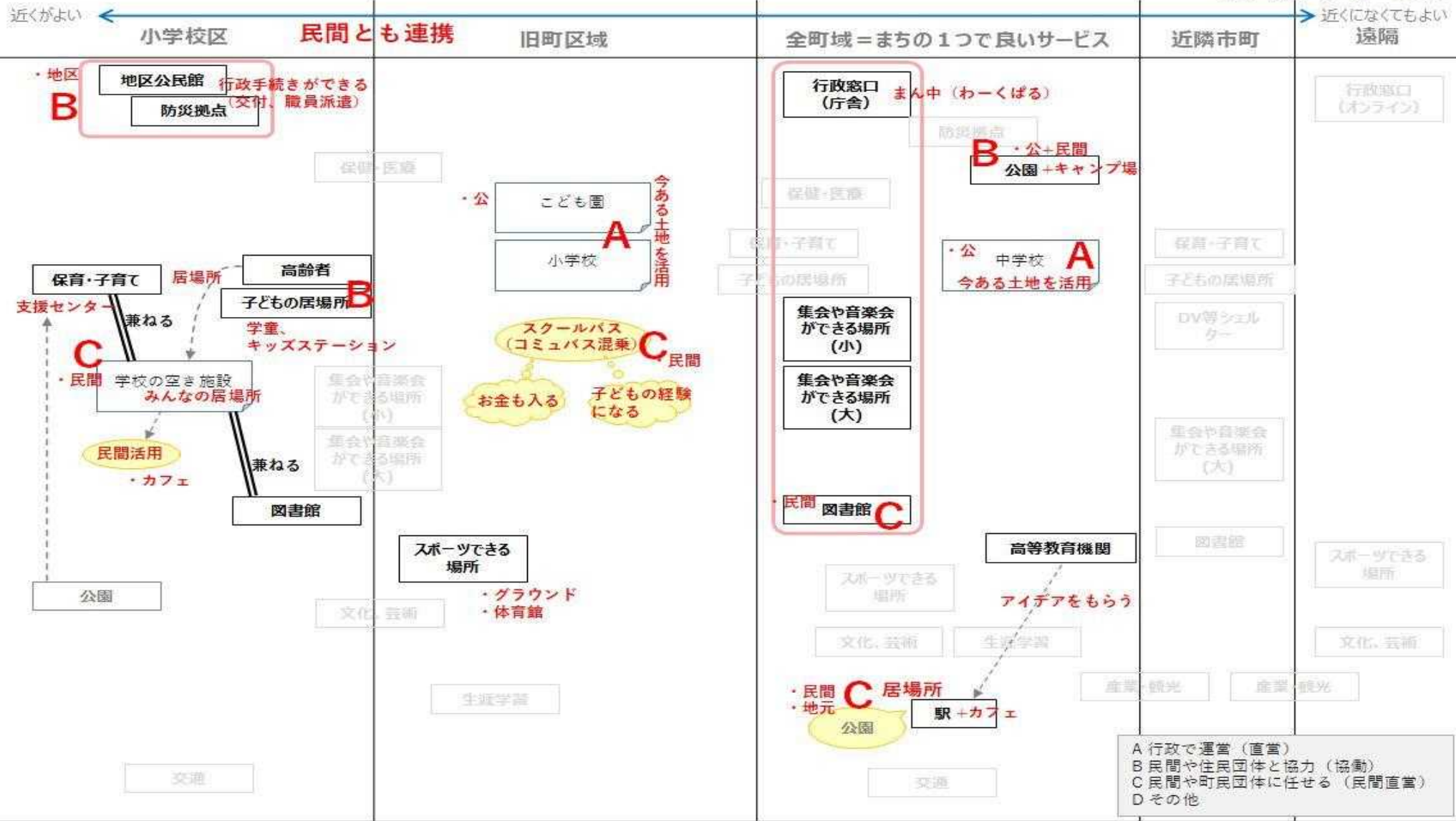


- ・旧町区域で子どもの居場所を中心にサービスを複合化する。（子育て支援センター、こども園、小学校、グラウンド、体育館、高齢者の集う場）
  - ・地域の身近の拠点として地区公民館を充実させる。（季節を限定した学童保育やキッズステーション、おじいちゃんおばんちゃんがキッチンでお弁当作り）
  - ・図書館は集約して、移動図書館やタクシー活用で貸出サービスを充実させる。
  - ・庁舎は一つに出張サービスによる窓口業務で充実するほかオンライン申請も。
  - ・公園を民間直営にしてグランピング（キャンプ）やイベントなどに活用する。
  - ・駅を拠点とした集約。（駅、カフェ、高校生の地域活動拠点、公園）
  - ・文化や芸術の発表の場として小規模のものは公民館、大規模のものは全町域に一つ大規模集会場を利用する。



- ・音楽ホールや文化、芸術のための施設は、近隣市町に一つだけというような思い切った統合も必要。→大きく統合できれば利益も出やすいため、民間企業による運営も視野に入ってくると思う。
- ・各地区にある公民館を行政窓口、図書館の窓口を利用する。→庁舎の一本化や、図書館の統合に繋がる。

- ・民間企業による運営を実現できればメリットは大きいですが、現存する与謝野町の施設で収益を得ることは困難だと思う。
- ・少しでも個人情報を扱う施設は、しっかり行政運営としてほしい。



・役場は町の真ん中に一つ。地区公民館やコンビニで簡易な交付手続きができるように。

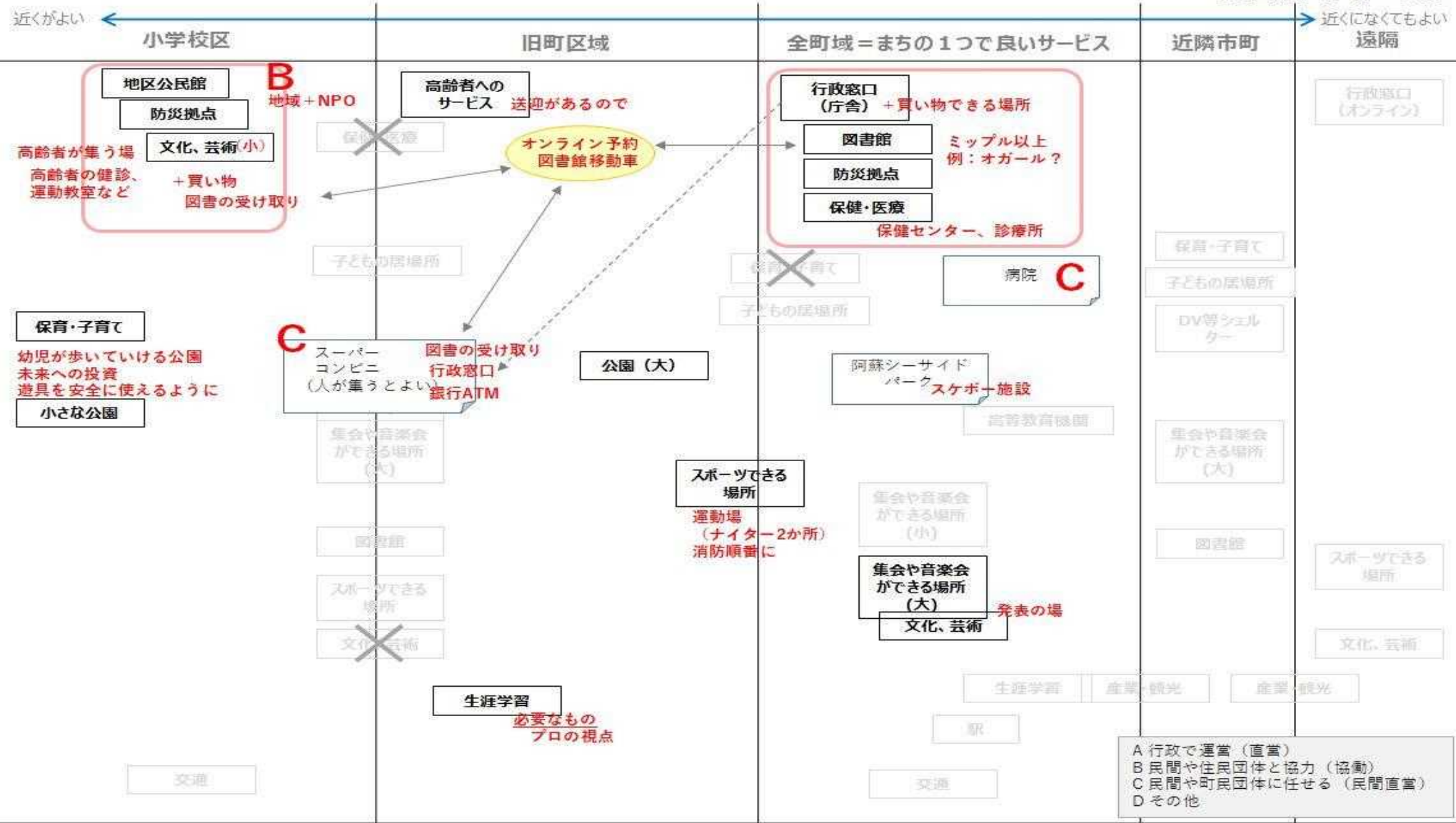
・こども園や小学校は旧町単位に1つ。ただし小学校にスクールバスは必須。バス運営は民間で、コミュバスに混乗するなど日中も無駄にならないような活用を。

・空いた小学校は、カフェや図書室、子育て支援センター等を兼ね備え、子ども～高齢者の居場所を確保しつつ、民間の力で自由に使ってもらっては。

・公園やカフェの併設など、民間や地元の力で与謝野駅も居場所の一つに。

・スポーツができる場所 (グラウンド・体育館) は旧町単位で。

・空いた学校のグラウンドの活用はできても、体育館はサイズが小さいので兼ねられないのではないか。



- ・庁舎は1つにし、スーパーやコンビニ等、人が集いやすい場所にも行政窓口を
- ・子育て関連、幼児が遊べる小さな公園は近くにあった方がよい
- ・民間・NPOの協働により地区公民館を運営
- ・防災拠点や小規模な文化・芸術の場としても活用
- ・高齢者関連施設については、送迎を伴うサービスは旧町区域でよいのでは

- ・図書館は1つでよい オンライン予約も可とし、公民館やスーパー等複数箇所に受取りの場を設ける
- ・庁舎やスーパー、公民館等、足を運びやすい場所で買い物・ATMなど日常に利用するサービスの複合化を
- ・スポーツ施設のナイターは2ヶ所に集約を 操法訓練は日程を調整し順番に使用

## 私の提案

よさの地域デザイン会議においては、班ごとに意見の整理を行いましたが、同会議に参加いただいたメンバーの意見をよりお伺いするために、個人の意見として任意で意見を募集（2021.12.20-2022.1.6）したところ、11名の方から提出がありました。

加えて、よさの地域デザイン会議で整理した11班の意見を公表したのち、同会議のメンバー以外からも広くご意見を伺うため、同じ様式により「私の提案」として募集（2022.3.20-2022.4.4）したところ、1名の方から提出がありました。



|  |  |                                |                                    |                              |                    |                  |
|--|--|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 千年を見越した木造複合機能施設。与謝野から世界へのSDG's提案   |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)   |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 3. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)   |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | 1. 2～3年以内                      | 2. 3～5年                            | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先          | 5. その他           |
|  | 実現時期   | 1. 2～3年以内                      | 2. 3～5年                            | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先          | 5. その他           |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に) | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | 日本には身近で豊富な木材資源を利用して木造建築をつくってきた長い歴史があり、中には法隆寺のように1000年を超える木造建築も存在します。これらの建造物は地震等の災害にも強い構造をもちます。しかしながら単純に古い伝統工法を継承するのではなく現代的な利便性や新たな智慧の導入が必要です。日本の培ってきた木造建築技術に改良を加え、令和から1000年先を見越した施設を作り、またそのメンテナンス技術を構築し未来に受け継いでいく仕組みを世界に提案することこそ与謝野から世界に発信するSDG'sとなると考えます。スタート、実施は老朽化した施設の立替とし、機能は集約・複号化を行い、また伝統建築技術と新技術のハイブリット化の研究およびメンテナンス並びにその人材育成・技術継承の仕組み作りプロジェクトも同時並行してたちあげます。 |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | 事業で得る収益を除き、最低スクラップ&ビルドで1000年施設を維持する費用と同額を予算とする。  |                                |                                    |                              |                    |                  |

|  |  |                                |                                    |                              |                    |                  |
|--|--|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 統廃合のグループ意見と私個人の体育館への思い   |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム ② 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)  |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 ③ 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)  |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | 1. 2～3年以内                      | 2. 3～5年                            | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先          | 5. その他           |
|  | 実現時期   | 1. 2～3年以内                      | 2. 3～5年                            | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先          | 5. その他           |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に) | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>3回のデザイン会議において自分の思うことをグループ内で発言してきましたが、最後のグループ討議で出された中心的な公共施設の統廃合の意見を報告致します。まず庁舎を1つにするべきです。財政が厳しい厳しいと言いながらもできていない庁舎の統廃合を実施して見本を見せるべきです。総合図書館はわーくばるに併設、江陽中と加悦中を統合し場所は加悦中に、野田川の小学校を統合し江陽中跡に、のだがわこども園は野田川庁舎跡か山田小跡に、空きが出た小学校跡は、子育て支援センターや民間活用に、民間活用にすれば教室が事務所や作業場、体育館を福利厚生施設にすることも考えられる、運動場は地域の人も運動会や避難場所に使えるようにするなど地域住民と共に工夫した使い方をすれば地域に活気ももたらすであろうとの意見がありました。</p> <p>ここで運動会、体育館といった言葉が出てきましたが、最後に旧町単位にある3つの大きな体育館について私個人の提案をいたします。デザイン会議が開かれた発端は体育館問題でした。旧野田川はこの地区も半世紀に渡り運動会が行われ、そのあと町を1つにした町民運動会、さらに町内一周の駅伝大会が開催されるなどスポーツの町といわれていました。それが町民の体力向上、及びコミュニケーションの手段として根付き、町に勢いをもたらししていました。木崎良子というオリンピック選手が出てきたのは偶然ではありません。3町が一緒になって加悦出身の西原加純、岩滝出身の一色恭志(ただし)、糸井嘉男選手など、小さな町からこんなに多くの有名スポーツ選手が出ていることをもっとアピールしていいと思います。そんなスポーツの町の中心的存在であり多くの利用がある体育館を壊そうと考えるのは理不尽で町民あっての町とは言えません。老人の孤立化や心に悩みを持つ人を支えていく社会を目指す現代こそ、健康やコミュニケーションをつくる場が必要とされるのではないのでしょうか、雪国でも年中利用可能な体育館は非常に大切な施設です。体と心の健康の為やコミュニケーションが欲しいと集まる老若男女の町民の為に3つの大きな体育館だけは閉鎖のリストに入れるべきではないと提案致します。</p> |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)   |                                |                                    |                              |                    |                  |



|  |   |   |                                    |                              |  |  |
|--|---|---|------------------------------------|------------------------------|--|--|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 金銭的自立と文化的豊かさの両立   |   |                                    |                              |  |  |
| 提案の種類                                  | ①. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 ⑤. 施設の更新方法<br>⑥. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)  |   |                                    |                              |  |  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 ③. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)  |   |                                    |                              |  |  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期  | ①. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |                              |  |  |
|  | 実現時期  | 1. 2～3年以内 ②. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |                              |  |  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)   | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)              | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に)<br>5. その他<br>(具体的に)   |  |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>「金銭的な自立度」を横軸に、「文化(心)的な豊かさ・安心度」を縦軸にしたマトリクス図を作り、そこに各施設をあてはめていく。<br/>例えば加工場は「お金を生むが文化を豊かにするわけではない」Cに。公民館は「お金は生まないがコミュニティの場として文化を豊かにする」Bに位置する。<br/>AとCは(さらに右上に移行する努力をしつつ)現状継続でも大きな問題はない。BはAになることが望ましい(学校、消防車庫はBのままでよい)<br/>DはCかB、さらにはAにすることが必要。例えば廃校を加工場にすればC、公民館にすればBに、宿泊施設(災害時は避難所)やカフェ・レストランにすれば(町外の人から外貨を得、地元民には文化と心の豊かさの場になり)Aになる可能性がある。<br/>公共交通システムは「Uberタクシー解禁特区」に立候補する。</p> |   |                                    |                              | <div style="text-align: center;"> <div>・公民館</div> <div style="font-size: 2em;">B</div> <div>低い ←金銭的な自立→ 高い</div> </div>  | <div style="text-align: center;"> <div>高い</div> <div>↑<br/>文化(心)豊かさ安心度<br/>↓</div> <div style="font-size: 2em;">A</div> </div> |
|  |   |   |                                    |                              | <div style="text-align: center;"> <div>・廃校</div> <div style="font-size: 2em;">D</div> <div>↑<br/>文化(心)豊かさ安心度<br/>↓</div> <div style="font-size: 2em;">C</div> <div>低い</div> </div> | <div style="text-align: center;"> <div>・加工場</div> </div>   |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)施設の再利用は、解体費用と同額までは町がまかない、それ以上は運営者が負担する。   |   |                                    |                              |  |  |

|  |   |   |                                    |                              |                    |                  |
|--|---|---|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 無駄のない町づくり   |   |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>⑥. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 ⑧. その他(具体的に 町の財政面について)  |   |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 ③. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)  |   |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期  | 1. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 ⑤. その他 |                                    |                              |                    |                  |
|  | 実現時期  | 1. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 ⑤. その他 |                                    |                              |                    |                  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)   | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)              | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | ③. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>1. 給食センターについて<br/>給食センターについては、建築から40年以上が経過し既存建物の老朽化が進んでおり、新たな給食センター(ドライ方式)の整備に取り組む必要があります。与謝野町主導で旧岩屋小学校を給食センターに…。という話も聞いているが、改めて廃校となった旧岩屋小学校と旧与謝小学校を比較します。</p> <p>①建設工事費用(解体工事費用含む)について 今ある校舎を取り壊して新たに給食センターを整備する場合、解体費用がかかることから、必然的にグラウンドに整備することとなるが、旧岩屋小は隣接する山が崩れる恐れがあります。一方、旧与謝小は隣接する山が崩れる心配がありません。</p> <p>②幹線道路へのアクセスについて 旧岩屋小は小学校周辺の道路が狭隘で幹線道路へのアクセスが悪い。また、交通安全の面でも危険性があります。一方、旧与謝小は幹線道路へのアクセスが容易であり、交通安全の面も積雪時等の余計な心配をする必要がありません。</p> <p>③旧桑飼小学校について 町主導で旧桑飼小を福祉施設として活用するのなら、同じようにデザイン会議の意見をベース(根拠)として、町主導で旧与謝小を給食センターとして活用できるのではないかと考えます。</p> <p>④岩滝小学校について 新たに給食センターを整備した場合、新給食センターの完成を契機として、現在、岩滝小学校で実施している自校給食を廃止し、給食センター方式を導入すれば、合理化と人件費の抑制を図ることができ、少しでも無駄をなくす(コストカットにつながる)ことができます。</p> <p>以上のことから、旧与謝小学校を給食センターとして活用することを提案します。</p> <p>2. 財政面について<br/>デザイン会議では、皆さんがいろいろな意見・アイデアを述べることで、有意義な会議になっていますが、与謝野町としては、それらの意見と財政運営の二つが両輪となってはじめて物事を進めることができます。実質公債費比率が18%を目の前にした状況の中、あれもこれもやろうとすることを考えず、まずは無駄のない財政運営を推進していただきたいです。そのことを踏まえ、例えば財政調整基金が30億円とか、50億円になった時点で、事業の着手に踏み切るなどの財政面での目標も掲げながら、町長をはじめ、議会、町職員、町民が一体となって実効性のある施策を推進していただきたいと考えます。</p> <p>※極端な言い方をすれば、財政状況が悪い間は、なにもするな!ということです。</p> |   |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)  |   |                                    |                              |                    |                  |



|  |  |  |                                    |   |                    |                  |
|--|--|--|------------------------------------|---|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 庁舎の一本化（身の丈に合うまち作り）   |  |                                    |   |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム ② 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 ④ 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他（具体的に）   |  |                                    |   |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 ③ 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他（具体的に）  |  |                                    |   |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | ① 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |   |                    |                  |
|  | 実現時期   | ① 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |   |                    |                  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)             | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に)<br><br>全町民 | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>加悦庁舎へ統合。統合に当たり前提となるのは庁舎へのインフラ整備。<br/>申請書類等はデジタル化を進めるべきと考えます。</p> <p>1. インフラ整備では、町内からの交通インフラは①乗合タクシーの運営、②既存バスの庁舎利用時の定額化、③駐車場の拡大、④免許返納者への交通インフラ無料化（登録制）</p> <p>2. 銀行ATMの移設（銀行、信金、郵貯）</p> <p>3. 申請書等のデジタル化→スマートフォン、PCからの申請でコンビニ以外にスーパーストア、ドラッグストア等で発行できる様にする。ただしマイナンバーカード保有者のみ。</p> <p>庁舎の一本化は防災から見ても、施設の投資、情報のスピード化等、有効と思われます。立地も近隣に金融機関、商業施設があり利便性は高いと思われます。</p> |  |                                    |   |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で) 全くわかりません。   |  |                                    |   |                    |                  |

|  |  |  |                                    |                              |                    |                  |
|--|--|--|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 地元主導型旧町管理施設の運用   |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)   |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 3. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)   |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | 1. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他  |                                    |                              |                    |                  |
|  | 実現時期   | 1. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)<br><br>区の運営団体 | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>1. 各地域の活性化と高齢者、若者の雇用と潜在技能の伝承と住民コミュニティ<br/>2. 予算の使用を地域還元を目標に運営を住民、技術フォローを地元企業とする<br/>3. 役場組織+地域自治会 →住民の生涯活動(技能を持った人の生涯労働力の確保)</p> <p>例、地域住民の技能・免許の登録による雇用、運営方法等の職歴による人材確保</p> <p>↓</p> <p>初期運営に対し町と地域のタイアップと、資金の流れによる向上削減運営構想</p> <p>↓</p> <p>自治会の会社会的経営で地域～町内への恩恵 地域住民の生涯学習を考える</p> <p>※現在、町内の企業が占有している場合は収支の状況を検討<br/>現在、委託している企業の年間資金+自治会への上乗せ補助の交付</p> |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)   |  |                                    |                              |                    |                  |



|  |  |  |  |                              |                    |                  |
|--|--|--|--|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 町民ひきこもり防止 外出支援   |  |  |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | <input type="radio"/> 1. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)   |  |  |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 <input checked="" type="radio"/> 3. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)  |  |  |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | <input checked="" type="radio"/> 1. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |  |                              |                    |                  |
|  | 実現時期   | <input checked="" type="radio"/> 1. 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |  |                              |                    |                  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)   | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に)<br>主婦<br>シルバー人材 | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>丹海バス、タクシーなど交通利用が減るのは、丹海バスの利用する時間が減り利用者もなくなるという悪循環になっている。タクシーも利用者が減るため台数も少ない。与謝野町の高齢者は買物、病院など不便でひきこもりになっていると思います。外出するのがおっくうになり自宅にこもり、運動できずに認知機能低下を引き起こしています。</p> <p>宮津市がNPOやシルバー人材などお協力のもと、ある地域のみなさんの協力を受けて200円タクシーを運営してます。まだ宮津も全地域でできておりませんが、集会所、行く場所を月に何回とか決めて申し込みを受けて、病院、与謝の海、ミッブル、市役所などに送迎サービスをしています。</p> <p>与謝野町でもぜひ交通不便、ひきこもり防止のためにシルバーとかNPOで送迎タクシーサービスを試みてはいかがでしょうか。片道200円収入、送迎400円</p> |  |  |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で) 主婦、高齢者の運転できる者(時給800円くらい支払う) 車は中古車(行き先が同じなら3人とかいっぺんに乗る)  |  |  |                              |                    |                  |

|  |  |  |                                    |                              |                    |                  |
|--|--|--|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 空き小学校園舎の活用（野田川地域の小学校、保育所統合に関わる空き校舎、園舎の活用）  |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム ② 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>⑥ 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他（具体的に）   |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 ② 旧町区域 3. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他（具体的に）  |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | ① 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |                              |                    |                  |
|  | 実現時期   | 1. 2～3年以内 2. 3～5年 ③ 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |                              |                    |                  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)             | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・野田川小学校（仮称）・・・給食センター、商工会議所跡に校舎、わーくばる駐車場一部を校庭に。</li> <li>・こども園、野田川体育施設・・・市場小学校跡地に。</li> <li>・給食センター・・・岩屋小学校 又は野田川庁舎に。</li> <li>・与謝野町商工会・・・例えば山田小学校に（交通の便から）<br/>商工会、織物技能訓練センター、染色センター、就労支援の訓練、講習、講座、教室、会議室、展示室</li> <li>・フリースクール、ひきこもり支援等自立支援は、上記の就労支援と連携・・・上記との連携から山田保育所に。</li> </ul> |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)   |  |                                    |                              |                    |                  |



|  |  |                                |                                    |                              |                    |                  |
|--|--|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   |  |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)   |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 3. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)   |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | 1. 2～3年以内                      | 2. 3～5年                            | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先          | 5. その他           |
|  | 実現時期   | 1. 2～3年以内                      | 2. 3～5年                            | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先          | 5. その他           |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に) | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的な<br>内容<br>(400字以内)              | <p>与謝野町も他の市町村が問題として抱えている人口減少・コミュニティの弱体化・高齢化が進み、今までのデザイン会議の中でも地域インフラとしての公共交通の大切さが取り上げられています。そんな中で野田川での乗合タクシーの試験実施が始まるということは大変住民として喜ばしいことであります。</p> <p>私は福知山でタクシー運転手を昨年末までしていて、乗合タクシーもドライバーとして関わっておりました。しかしながらいかんせん利用者が非常に少なく廃止となってしまいました。そこで「事業」として継続できるよう福知山の教訓を糧として提案したいことがあります。</p> <p>①会社組織としての取り組みの弱さ 行政からの要請で仕方なく応じる 事業として成り立つ努力に力を入れる。料金は定額(遠距離500円、近距離400円)でしたがタクシー料金として精算するので未収が2000円以上になることがほとんどで、これは市の負担となっていたと思われる。タクシーの運行と何ら変わらず会社として腹は痛まない。</p> <p>②トップダウンが先行した運営のあり方、取り組みの弱さ 区長や行政関係者の意気込みはわかるが、それでは住民の要望には応えられない。→アリのバスの仕事に終わってはいけません。</p> <p>③住民から見た定時・定点運行の不便さ バスの運行と同様ルート運行 ルートを回らず行きたい時に行きたい所へ</p> <p>④車両の問題 5人乗りのコンフォートという車両で運行していたが、後部座席がベンチシートで4人からオーダーがあると3人密になって乗らないと乗れない。</p> <p>⑤家族に気兼ねして送ってもらうより、この料金ならという設定</p> <p>①②③事業として成り立つため利用人数の確保、効率の良い運行 試験運行の中で要望の聞き取りや町・区・隣組単位までのバックアップ</p> <p>→65歳以上の方・障害をお持ちの方・母子手帳を発行した方には行政から割引券「A」→個人までを登録制にして停留所として病院官公庁はもちろんグルメや買物を町内、地消できるものとする(友達の家に行きたい時もドアツードアで行ける)※新たな事業主(個人・NPO)を発掘して仕事起こし</p> <p>④丹後ということもあり積雪のことも考え →4WDタイプの6人乗り普通乗用車 椅子が一人ひとりセパレートタイプ→これなら車椅子ごと乗車できる(安全うえシートには座る必要はあるが)</p> <p>⑤町内どこまで乗っても400円、就学前児童無料、「A」の方々には半額200円補助券(補助券の範囲を小学生まで広げること可 明石市ならしてくれそう)</p> <p>※福知山で運行している地域コミュニティバスのように白ナンバーで運行→経費が随分違って来る</p> |                                |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)   |                                |                                    |                              |                    |                  |



|  |  |                                |  |                              |   |
|--|--|--------------------------------|--|------------------------------|---|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 今ある施設を最大限活かして人が集まる街づくりへ  |                                |  |                              |   |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム 2. 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 ⑦ 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)  |                                |  |                              |   |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 3. 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア ⑥ その他(具体的に)  |                                |  |                              |   |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期   | ① 2～3年以内                       | 2. 3～5年  | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先 5. その他  |
|  | 実現時期   | ① 2～3年以内                       | 2. 3～5年  | 3. 5～10年                     | 4. 10年以上先 5. その他  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)  | 2. 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に) | ② 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に)<br>今それぞれ管理されて<br>いる団体へお願いする<br>か公募 | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) ⑤ その他<br>(具体的に)<br>私にも出来る事があ<br>ればお手伝いしたい<br>です。 |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>今回よさの地域デザイン会議へ出席させていただき、与謝野町の未来についてたくさん考えました。<br/> 人口減少のため、施設の集約は必要だと思います。しかし人口が減るからこそ住民を増やす、人が集まる街づくりが必要ではないかとい<br/> う方向で私は考えました。その方が持続可能なまちづくりへの近道であり、何より住民が住みたい街づくりであると思うからです。<br/> 与謝野町は近隣に宮津市、京丹後市、福知山市などがあり、観光や飲食、ショッピング(日用品以外)などには他市で多くお金を使っ<br/> ているような印象があります。特に50代以下の世代では、<br/> それなら他市からもアクセスがいいので与謝野町にもっと人が集まって、お金を使ってもらえるようにしたらいいはずです。<br/> コロナでまだまだアウトドアブームは続くはずです。<br/> ①双峰公園のキャンプ場をキレイにしたり、崖崩れ、トイレを直す。<br/> ②古墳公園を町民に無料開放するか、イベント時に無料に。キッチンカーを呼んだりしてそこから料金をもらう仕組み。<br/> ③野菜の駅で与謝野うまいもん市的なイベントを！！飲食店やキッチンカー、おかしを作ってる人などに声をかけて出店してもらう。</p> |                                |  |                              |   |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)クラウドファンディングなど  |                                |  |                              |   |



|  |   |  |                                    |                              |                    |                  |
|--|---|--|------------------------------------|------------------------------|--------------------|------------------|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)                   | 小学校の再編意見  |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の種類                                  | 1. 公共交通システム ② 施設の集約・複合化 3. 施設の民営化・民間活用 4. 施設のネットワーク化 5. 施設の更新方法<br>6. 施設の再利用 7. 施設の管理・運営方法 8. その他(具体的に)   |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の対象地域                                | 1. 小学校区 2. 旧町区域 ③ 全町域 4. 近隣市町 5. 広域エリア 6. その他(具体的に)   |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案のスタート<br>と実現時期                       | スタート時期  | ① 2～3年以内 2. 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |                              |                    |                  |
|  | 実現時期  | 1. 2～3年以内 ② 3～5年 3. 5～10年 4. 10年以上先 5. その他 |                                    |                              |                    |                  |
| 提案を主体的に<br>進めるべき人・<br>コミュニティ・<br>団体・組織 | 1. 地区の自治会<br>・町内会<br>(具体的に)   | ② 小学校区又は<br>中学校区の住民<br>(具体的に)              | 2. 企業・NPOなど<br>民間団体・グループ<br>(具体的に) | 3. 与謝野町及び<br>周辺市町村<br>(具体的に) | 4. 京都府・国<br>(具体的に) | 5. その他<br>(具体的に) |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)                   | <p>デザイン会議では、町内の小中学校の統合・再編については、旧町区域で小学校は1つ、中学校は全町域で2つの設置との意見が多数であると見受けられたが、本会議で設定した30年後の与謝野町を考えた場合、現時点で年単位の出生者が100人を切っている実情を考慮すると、それでも学校数が多いと思うのが本音である。町の財政やコスト意識も酌んで考えると、</p> <p>こども園は旧町単位で1つ(計3つ)<br/>         小学校はは全町域で2つ、1学校1学年2クラス(25人×2クラス×2学校=100人の計算)とし<br/>         野田川地域を2つに分けて加悦小、岩滝小に統合する。<br/>         中学校は野田川地域に(江陽中?)に統合、小学から進学にあたり新しい生徒との交流体験を促す。<br/>         旧町の垣根を取り払い、旧町意識を減らすことも与謝野町の未来に必要と考える。<br/>         新しい施設の建設は極力控える。</p> |  |                                    |                              |                    |                  |
| 提案の費用と<br>確保の方法                        | (わかる範囲で)  |  |                                    |                              |                    |                  |

|                            |   |           |  |
|----------------------------|---|-----------|--|
| 提案タイトル<br>(キャッチフレーズ)       | 社会で働く人が減り高齢者支援の福祉面での支援費負担が増大  |           |  |
| 提案の種類                      | 8. その他（生産人口を増やすことが一番では、行政マンは企業の育成に尽力を。行政マンは何をどうすれば生産人口が増えるか、それには何をしたらよいか企業の原点をさぐり町民に提示する。）                      |           |  |
| 提案の対象地域                    | 3. 全町域  |           |  |
| 提案のスタートと実現時期               | スタート時期  | 1. 2～3年以内 |  |
|                            | 実現時期  | 1. 2～3年以内 |  |
| 提案を主体的に進めるべき人・コミュニティ・団体・組織 | 2. 企業・NPOなど民間団体・グループ<br>（町在籍の企業有志の意見との意見交換-現状把握と今後どんな業種が不足か、行政がこうすればこうできる等。将来はこうすれば生産人口が増える等。現状のままだとダメで将来を語ろう。） |           | 3. 与謝野町及び 周辺市町村<br>（探求心のある行政マンとその上部機関職員と企業を交えたの意見交換一町にできること、将来的思考を。） |
| 提案の具体的内容<br>(400字以内)       | 上段に記載した討議で、社会で働く人、働く場所を増やすことを最先端に会議を行ってほしいです。   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
|                            |   |           |  |
| 提案の費用と確保の方法                | (この提案に費用は会議所場代だけです。)  |           |  |